

衛生学

1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	6人

2 教官の異動状況

- 青木 伸雄（教授）（H元. 11. 1～現職）
 杉本 弘司（助教授）（H10. 3. 1～現職）
 中村美詠子（助手）（H3. 4. 1～現職）
 久保 伸朗（助手）（H10. 5. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（0編）
そのインパクトファクターの合計	6.13
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakamura M, Tajima S, Yoshiike N: Nutrition intake in Japanese adults from National

Nutrition Survey, 1995-99, Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 48, 433-441, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.73]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (Aoki N, Nakamura M, Kubo N, et al): The effects of diabetes on the risks of major cardiovascular diseases and death in the Asia-Pacific region, Diabetes Care, 26, 360-366, 2003.

インパクトファクターの小計 [5.40]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木伸雄, 中村美詠子：禁煙対策の最近の展開，臨床スポーツ医学，19，303-309，2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木伸雄：健康づくり，新簡明衛生公衆衛生 改訂5版，南山堂，139-154，2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中村美詠子, 青木伸雄, 玉腰暁子, 中島 務, 星野知之, 黒沢美智子, 稲葉 裕, 喜多村健, 福田 諭, 村井和夫, 岡本牧人, 宇佐美真一, 暁清文, 福島邦弘: 突発性難聴, ムンプス難聴の全国疫学調査成績-推計患者数と受療率-, 厚生労働科学研究研究費補助金 特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 平成14年度総括・分担研究報告書, 81-84, 2003.
2. 中村美詠子, 吉池信男, 由田克士, 多島早奈英, 石田裕美, 高橋東生, 横山徹爾: 都道府県等栄養調査に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用, 平成14年度 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業 『健康日本21』における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究 報告書, 44-50, 2003.
3. 静岡県県民健康基礎調査検討会 (青木伸雄, 中村美詠子, 他): 平成14年度県民健康基礎調査検討会報告書, 静岡県健康福祉部長寿健康総室健康増進室, 1-39, 2003.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 星野知之, 中村美詠子, 青木伸雄, 岩崎 聡, 名倉三津佳, 岡村 純, 伊東由幾, 林 泰広, 姜洪仁, 種田 泉, 川名弓美, 林原能子, 関 敦郎, 新村久美子, 水田邦弘, 釣田美奈子, 中崎浩一, 熊切健一: ケースクロスオーバーデザインを取り入れた突発性難聴症例対照研究 - 中間報告 -, 厚生労働科学研究研究費補助金 特定疾患対策研究事業 急性高度難聴に関する調査研究 平成14年度総括・分担研究報告書, 12-13, 2003.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 田中平三, 中村美詠子, 吉池信男, 武見ゆかり, 多島早奈英: 「都道府県・政令市・特別区で実施している栄養調査とその活用に関するアンケート」報告書. 平成13年度 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業 『健康日本21』における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究, 1-74, 2002.
2. 中島 務, 喜多村健, 福田 諭, 村井和夫, 岡本牧人, 宇佐美真一, 星野知之, 暁清文, 福島邦弘, 富永光雄, 杉浦淳子, 中村美詠子, 青木伸雄, 玉腰暁子: 2001年発症の急性高度難聴全国疫学調査, 厚生労働科学研究研究費補助金 特定疾患対策研究事業 急性高度難聴に関する調査研究 平成14年度総括・分担研究報告書, 81-84, 2003.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (140万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (400万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	0件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	2件 (84万円)

(1) 文部科学省科学研究費

青木伸雄(代表者) 基盤研究(C)(2)「地域住民を対象とした緑茶飲用の高脂血症改善効果に関する研究」90万円(新規)

中村美詠子(代表者) 基盤研究(C)(2)「食塩摂取量及び血圧に対する低Na調味料の二重盲検無作為化試験」50万円(継続)

(2) 厚生科学研究費

中村美詠子(分担者) 健康科学総合研究事業「健康日本21」における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究 400万円(継続) 代表者 独立行政法人国立健康・栄養研究所理事長 田中平三

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	7件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際会議等開催・参加:

4) 一般発表

ポスター発表

Nakamura M: Blood pressure reduction using low sodium soy sauce and miso (soybean paste) in Japanese diet: double-blind, randomized, placebo-controlled study, XVIth International Scientific Meeting of the International Epidemiological Association, August 2002, Montreal (Canada)

(2) 国内学会の開催・参加

3) 座長をした学会名

青木伸雄, 第49回日本栄養改善学会, 2002年11月, 沖縄

青木伸雄, 第72回日本衛生学会, 2002年4月, 三重

5) 役職についている学会名とその役割

青木伸雄 日本循環器管理研究協議会 理事

東海公衆衛生学会 理事

日本栄養改善学会 評議員

日本公衆衛生学会 評議員, 編集委員

日本疫学会 評議員

日本衛生学会 評議員

中村美詠子 日本循環器管理研究協議会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	2件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

中村美詠子 Journal of Epidemiology (Japan Epidemiological Association), Editorial Board, Medline登録有, IF登録申請中

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

青木伸雄 1回, Environmental Health and Preventive Medicine (日本)

青木伸雄 1回, Journal of Epidemiology (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	5件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

アジア太平洋地域におけるコホート共同研究 (Asia Pacific Cohort Studies Collaboration), NHMRC Clinical Trials Centre, The University of Sydney (Australia), Clinical Trials Research Unit, The University of Auckland (New Zealand) 等, 平成10年より継続中, データ・担当コホートに関する資料提出, 分析検討への参加, Asia Pacific Cohort Studies Collaboration: The effects of diabetes on the risks of major cardiovascular diseases and death in the Asia-Pacific region, Diabetes Care, 26: 360-366, 2003.

(2) 国内共同研究

中島 務（名古屋大学耳鼻咽喉科学）玉腰暁子（名古屋大学予防医学）星野知之（本学耳鼻咽喉科学）等 突発性難聴，ムンプス難聴に関する全国疫学調査
吉池信男（独立行政法人国立健康栄養研究所）等 都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用に関する研究
杉浦 実（独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所） 日本産カンキツに関する栄養疫学研究
吹野洋子（静岡県立大学食品栄養科学部）緑茶飲用の健康への効用に関する疫学共同研究
那須恵子（静岡県立大学短期大学）赤血球変形能に関する疫学的研究

(3) 学内共同研究

星野知之，岩崎 聡（耳鼻咽喉科学）等 突発性難聴に関する症例対照研究

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究

本プロジェクトは，アジア太平洋地域における循環器疾患と中心とした主要疾患，及び事故とそのリスクファクターとの関連の大きさを明らかにするため計画された国際共同研究である。平成14年度には循環器疾患リスクファクターとしての糖尿病に関する知見が報告された。糖尿病により循環器疾患死亡のリスクは約2倍となること，アジア系と非アジア系（オーストラリア，ニュージーランド），および男性と女性でリスクに大きな違いは見られないが，60歳未満では老年者よりリスクが高いこと等が明らかにされた。

（中村美詠子，青木伸雄）

2. 突発性難聴に関する疫学研究

突発性難聴に関する記述疫学研究，及び症例対照研究を実施している。記述疫学研究では，全国の病院耳鼻咽喉科の協力を得て，我が国における突発性難聴の2001年における受療状況等を明らかにするための全国疫学調査を実施し，2002年一年間の突発性難聴受療患者数は35,000人（95%信頼区間32,000-38,000）と推計し，わが国における突発性難聴患者が依然増加傾向にあることが示した。また，症例対照研究については，現在データ収集中である。

（中村美詠子，青木伸雄，星野知之他）

3. 日本産カンキツに関する栄養疫学研究

血清カロテノイドと糖尿病，動脈硬化等に関するコホート研究のベースライン調査（横断研究）

を実施するため、調査参加者の募集（研究内容の周知）、調査票の作成等を行った。ベースライン調査は平成15年度に実施し、その後5年間追跡する予定である。

（中村美詠子）

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究（APCSC: Asia Pacific Cohort Studies Collaboration）は、アジア太平洋地域（オーストラリア、ニュージーランド、日本、中国、韓国、台湾、シンガポール）における大規模国際共同研究である。従来、循環器疾患のリスクファクター等に関する大規模疫学研究は欧米を中心にすすめられてきており、遺伝環境要因の異なるアジア太平洋地域におけるエビデンスは限られていた。本研究は東アジアにおける脳卒中と虚血性心疾患に関する共同研究（ESCHDCP: Eastern Stroke and Coronary Heart Disease Collaborative Project）を発展、継続させたものであり、その研究成果はアジア太平洋地域における疾病負荷を予測する基礎データとして、WHO等にも提供される予定である（Global burden of disease collaboration）。
2. 日本産カンキツに関する栄養疫学研究は、日本産のウンシュウミカンに豊富な β クリプトキサンチン等のカロテノイドと糖尿病、動脈硬化等との関連を明らかにすることを目的として計画された共同研究である。わが国有数のミカン産地（三ヶ日町）の協力を得て疫学調査を実施する。三ヶ日町住民の血清 β クリプトキサンチンレベルは幅広く分布することが予測され、世界他地域では得られない知見が得られることが期待される。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 「三ヶ日町民700人有効性追跡調査」（中日新聞2002年10月11日朝刊）